



## キリストを着る者

4月3日は「いつくしみの主日」です。

教皇ヨハネ・パウロ二世は、2000年4月30日、福者マリア・ファウスティナ・コヴァルスカ列聖式ミサの説教の中で、復活節第二主日が「今後全教会で『神のいつくしみの主日』と呼ばれる」と宣言されました。

復活節第二主日は、2000年以前には「白衣の主日」と呼ばれていました。

復活祭後の8日間は、復活徹夜祭に洗礼を受けた人のための集中的な秘跡教育の時間とされていたのです。この8日間は「白衣の8日間」とも呼ばれていました。洗礼式に白衣を受けた人が白衣を8日間着続け、教話を受け続けるという意味でした。

8日間の最後の日になる復活節第二主日が「白衣の主日」と呼ばれるようになりました。

「白衣を受けなさい。あなたは新しい人となり、キリストを着る者となりました。神の国の完成を待ち望みながら、キリストに従って歩みなさい。」洗礼志願者が白衣を受ける時に語りかけられることばです。

洗礼を受けたわたしたちはみな「キリストを着る者」とされたのです。

教皇フランシスコは「いつくしみは生きたもの、見えるものとなり、ナザレのイエスのうちに頂点に達しました。・・・ナザレのイエスは、そ

のことばと行い、そして全人格を通して、神のいつくしみを明らかになさいます。」と「いつくしみの特別聖年公布の大勅書」の冒頭で述べています。

「いつくしみの特別聖年」の「いつくしみの主日」を祝いながら、「白衣の主日」の記念を心に刻み、父のいつくしみのみ顔であるイエス・キリストを観想し、「キリストを着る者」として日々を生きる使命を果たしていくことができるよう祈りましょう。



## ローマ教皇復活徹夜祭ミサ説教

(抜粋)

主は生きておられます。そして、わたしたちが生きている人々の中で主を探し求めることを望んでおられます。人は、主を見つけたら復活のメッセージを告げるよう、主によって遣わされています。それは、悲しみにとらわれている人や、いのちの意味を見いだそうと奮闘している人の心に希望を呼びさまし、復活させるためです。今日、そのことは非常に必要とされています。自分自身のことを忘れ、希望をもたらす喜びの使者として、自分の生き方や愛によって復活した主を告げ知らせなければ

なりません。そうでなければ、わたしたちは、大勢の会員と良い規則を有する単なる国際団体となり、世界が待ち望んでいる希望をもたらさなくなってしまう。

どうしたら、希望を育むことができるでしょうか。(中略)福音書はまた、次のこともわたしたちに思い起こさせます。婦人たちの心に希望の灯をともすために、天使は言います。

「(イエスが)お話になったことを思い出しなさい」(ルカ 24・6)。イエスのことばを思い出してください。イエスとその生涯に行ったわざをすべて思い出してください。そうでなければ、わたしたちは希望を失い、「失望した」キリスト者になってしまいます。主を、主のよいわざを、いのちを与える主の感動的なことばを思い出しましょう。それらを思い出し、自分のものにしましょう。そうすれば、復活した主のしるしを他の人々が見るのを助けることのできる、この朝の見張り人になれるでしょう。

兄弟姉妹の皆さん、キリストは復活されました。わたしたちは心を開き、希望というキリストのたまものを受けすることができます。希望に向けて心を開き、前に進みましょう。

(カトリック中央協議会 訳)

## 主な教会暦(主日を除く)

04月04日 神のお告げ(祭日)

04月25日 聖マルコ福音記者(祝日)



(ホームページ)

